

## 第3回 塩竈市地域公共交通会議 議事録

日 時：令和5年7月25日（火） 15：30～16：30

場 所：塩竈市役所3階北側委員会室

出席委員：千葉会長、長尾委員、熊谷委員、横田委員（代理）、土井委員、郷家委員、平山委員  
中村委員、長谷部委員、佐藤委員、本多委員、長峯委員、草野委員（計13名）

欠席委員：鈴木委員、植松委員、浅野委員

事務局：塩竈市総務部政策課

### 1. 会議目的

運行維持対策案に関する意見を頂戴し、対策内容の合意形成を図るもの。

### 2. 協議結果

事務局案として提示した、「150円への料金改定」及び「NEW しおナビ100円バスへのキャッシュレス端末導入の検討」について全員の賛成により合意が図られた。

### 3. 議事要旨

#### [協議事項]

- ・運行維持対策案について

事務局から協議事項について説明

#### [質疑等]

千葉会長：事務局から説明があったが、対策案についてはこの地域公共交通会議において合意形成を図られたことを前提に、各協議会での報告となる。まずはこの場で、委員の皆様よりご意見をいただきたい。

千葉会長：アンケートについて、対象者は塩竈市民及び近隣市町居住者とあるが、近隣というのはいままで対象としているのか。

事務局：厳密に居住地区で回答の有効無効は判断していない。塩竈市外の方としては、仙台市や多賀城市、七ヶ浜町の方からの回答などがあった。

千葉会長：基本的には塩竈市民からの回答が多いという理解でよいか。

事務局：その通り。その他と答えた15名が塩竈市外の方である。

長谷部委員：設問10の値上げに対する妥当額について、その他と答えた方が100円維持を希望しているのではないかと捉えている。150円、200円と高い割合が続くが、全体として値上げは止む無し、値上げ反対と答えた方の割合などはわかるか。

事務局：設問10は値上げを前提とした問いのため、選択肢に100円がなくこのような回答結果になった。その他と答えた51名のうち、100円維持または値上げ反対と答えた方は30名であった。他21名の中には値上げ止む無しといった意見があった。実際にバス車内でアンケート配

布を行った際には、多少値上げをしても運行を続けてほしいという声があった。

千葉会長：運行維持にあたり料金を改定するという事務局案としては、コロナ禍前の収支率を基準とし、150 円へ改定することで改善を図る考え方としている。考え方としては市民の足を確保するため、市がこれまで以上の負担を負っても現状維持とする考え方などもあるが、基準値の考え方などご意見ご質問ないか。

横田委員：自動車免許保有状況の箇所、交通手段をバスに切り替える者の自然増は期待できないと説明があったが、高齢者は免許返納した後の足をどう確保するのかという部分が不安であるため免許返納しないものと考えられる。高齢者の免許返納の推進として、返納後の障害に対する議論を進めていけば乗客数予測はここまで減らないのではと考える。

千葉会長：今の指摘事項も踏まえ事務局として対策を検討してもらいたい。

長尾委員：仮に 150 円に料金改定した場合、子供や障がい者は半額の 70 円としているが、バス料金の場合、10 円未満は引き上げとなるため 80 円になる。統一させないとトラブルの原因となるため検討いただきたい。

事務局：確認不足であった。半額料金については改めて整理したい。

千葉会長：料金を 150 円に改定した場合、両替機の導入ではなく、比較的成本の抑えられるキャッシュレス端末の導入という説明があった。これは県内市町村で導入事例はあるのか。

事務局：名取市で試験的に導入している。

千葉会長：NEW しおナビ 100 円バスは 2 台運行しているが、2 台に導入するということか。また、しおナビ 100 円バスは現状すでに IC カード決済に対応しているため、しおナビには導入しないということになるのか。

事務局：その通りの想定である。詳細については、今後ミヤコーバスとも協議したい。

中村委員：前回の会議で、利便性を高めるため、免許証を返納した人の優遇を 1 年延長や、定期券という意見もあった。老人クラブの会員からも賛成意見はあったが、やはり免許証の自主返納は相当の勇気が必要だと感じる。実際に免許証を自主返納した人の話を聞いてみると、やはり返納した人は、ものすごく不便を感じているという。そのため、交通手段としての代替策にバスは選択しづらいのではと思う。その中でも、もう少し利用したい時間帯やバスの運行回数というのを考えてもらえれば利用者も増える可能性もあるため、その辺も考えていただきたい。

事務局：アンケートでも時間帯の延長や本数の追加を要望する意見はあった。しかし、現状運行本数を増やすことにより赤字幅が増えてしまうという状況にあり、収支率の回復を目指す中で今すぐに増やすということは難しいと考える。今後運行状況が改善していった際には、運行ルートの見直しや時間帯、運行本数といった点も見直していきたい。

土井委員：本日は料金改定案が出されると予想してきたが、実際に 150 円に改定したとしても、市の負担額が 3500 万、200 円の場合であっても 3100 万の財政負担となる。市として負担額はいくらまでなら許容できるのか。また、しおナビと NEW しおナビではコストが異なる。New しおナビは 150 円、しおナビは 200 円というような、差額設定も検討してはよいのではないかと。市民としても市の財政負担は少ない方がいいと思う。

事務局：市の負担額については黒字化が望ましく、財政負担なく運行できるのが一番である。しかし、

前回会議で示した通り、乗車料金を上げてでも利用者数は減少し、十分な収入が見込めない。また、黒字化するまで乗車人数を増やすというのは、非常に難しいという試算結果となった。その上で最大限負担を減らすという意味で基準としたのが、コロナ禍前の 52.7%の収支率であった。公共交通の立場もあるため最大限負担を減らしつつ運行維持できる形を目指したい。2 系統については確かにコストが変わってくるが、これまで塩竈市ではどこから乗車しても 100 円という塩竈市ならではのバスの運行形態だった。公平性ある運行形態は今後も続けていきたい。

千葉会長：2 系統は確かにコストが違うが、引き続き同一料金としていきたいというのが事務局の考え。利用される方からすれば、できるだけ廉価に足を確保したいが、利用していない方からすると受益者負担という考え方もある。そういった中においても、コロナ禍前の収支率を戻したいということで、提案があった。その点も含め、本日合意形成を図りたい。

事務局に質問だが、料金改定の合意形成後、次の段階として運行ルートの変更など更なる協議が必要になった場合も公共交通会議の場で諮るのか。

事務局：その通りである。

郷家委員：今現在 NEW しおナビの車両に両替機は入っていないが、両替が必要な場合は運転手が行っているのか。また今後もその想定か。

事務局：両替が必要な場合は運転手が行っている。また現時点では今後もその想定である。

千葉会長：将来、利用者の利便性向上としてスマホをつかった決済という説明があったが、具体的に県内で類似事例の導入実績はあるのか。

事務局：名取市で今後導入予定としている。アプリ上で利用者情報を登録することで、特定の対象者にクーポンの配布が可能といった機能もあると聞いている。

千葉会長：名取市の決済端末試験導入にあたり、不具合等は生じていないか。

事務局：名取市の場合は、一律の料金ではないため都度運転手が料金を確認し、金額を端末に入力したうえで決済としている。金額の確認については運転手の負担になっているという話は聞いている。

千葉会長：キャッシュレス決済対象者が前提となるが、例えば免許返納者や高齢者に対する優遇は、資料上の決済端末によって可能か。

事務局：都度支払額を変えることができるため、一定の期間や特定の方に対し金額を変更するということは可能である。

平山委員：現役時代はバスを利用することもあった。また、孫と一緒に乗ることなどもあったが最近では利用していない。利用していないうえでの意見だが、塩竈市のバスはどこで乗ってどこで降りても 100 円であるが、例えばバスに乗り続け、1 周しても 2 周しても 100 円というのはどうかと思う。

事務局：乗った分だけ払うという距離制運賃も一つのあるべき姿と考えているが、塩竈市らしいバス運行としてこれまで続けてきた均一料金という形を公平性の観点からも維持したいと考えている。

千葉会長：本来バス事業は独立採算原則としているが、公共交通の立場として自治体が関与し、市民の足を確保するなかで、市民の皆様の税金を投入して支えている。その上で、分かりやすさ、

利用のしやすさを備え均一料金を続けていきたいというのが事務局の考えである。

千葉会長：運行維持対策案について公共交通会議としての合意形成を図りたい。運行時間帯や返納者、高齢者に対する支援の在り方については、別の地域公共交通会議の場でご意見いただくが、本日は事務局案に対して賛成反対の決を取らせていただく。運行維持対策案について、賛成の方は挙手をお願いしたい。

→委員12名全員挙手

事務局：委員全員の挙手があったため、事務局案について同意を得たものとする。今後については、市役所内で報告し、その後9月以降に議会へ報告させていただく。議会の同意を得られれば来年度4月から料金改定に向けた各種手続き等を進めさせていただく。また他の事案について、変更等があれば別途地域公共交通会議を開催させていただきたい。

千葉会長：予定していた議事は以上となる。他に何か連絡事項等はないか。

横田委員：今後の運行維持の対策として、公共交通従事者に対する確保についても議論をしていただきたい。全国的にもバス、タクシーの運転手不足が深刻化しており、一事業者では対策ができないようなところがある。運転手の高齢化も進むため、若い人たちに魅力ある交通事業ということを自治体としても発信していただきたく、今後の議論で内容を詰めていただきたい。

千葉会長：運転手不足、高齢化問題については、様々な機会にご指導いただき、市として職場体験や事業者のPRなどできる範囲で協力できるよう考えていきたい。

事務局：本日までのご意見を基に、今後の本市バス事業運行維持対策に取り組ませていただく。今後については、対策後の結果等、改善状況についてご報告させていただく。